

製品名: NFκB-p105/p50 (リン酸化 Ser337) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05098**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	105+50kDa

抗原情報

遺伝子名	NFKB1
別名	NFKB1; Nuclear factor NF-kappa-B p105 subunit; DNA-binding factor KBF1; EBP-1; Nuclear factor of kappa light polypeptide gene enhancer in B-cells 1
遺伝子 ID	4790.0
SwissProt ID	P19838
免疫原	ヒト NFκB-p105/p50 のリン酸化部位（リン酸化 Ser337）周辺の合成リン酸化ペプチド

背景

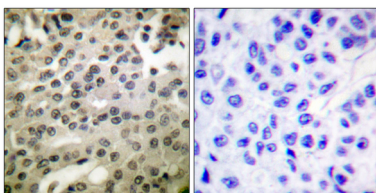
核因子 κB サブユニット 1 (NFKB1) ホモサピエンス この遺伝子は 105kD のタンパク質をコードしており、26S プロテアソームによ

る共翻訳プロセッシングを受けて 50kD のタンパク質を生成します。105kD のタンパク質は Rel タンパク質特異的転写阻害因子であり、50kD のタンパク質は NF-κB (NFKB) タンパク質複合体の DNA 結合サブユニットです。NFKB は、サイトカイン、酸化フリーラジカル、紫外線照射、細菌またはウイルス産物などのさまざまな細胞内外刺激によって活性化される転写制御因子です。活性化された NFKB は核に移行し、さまざまな生物学的機能に関する遺伝子の発現を刺激します。NFKB の不適切な活性化は多くの炎症性疾患に関連しており、NFKB の持続的な阻害は不適切な免疫細胞の発達や細胞増殖の遅延につながります。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。ドメイン：グリシンリッチ領域 (GRR) は、p50 の生成に不可欠な要素であると考えられます。ドメイン：p105 の C 末端は、細胞質保持、DNA 結合の阻害、および転写活性化に関与している可能性があります。機能：NF-κB は、ほぼすべての細胞タイプに存在する多面的転写因子であり、炎症、免疫、分化、細胞増殖、腫瘍形成、アポトーシスなどの多くの生物学的プロセスに関与しています。NF-κB は、Rel 様ドメインを含むタンパク質 RELA/p65、RELB、NFKB1/p105、NFKB1/p50、REL、および NFKB2/p52 によって形成されるホモまたはヘテロ二量体複合体であり、ヘテロ二量体の p65-p50 複合体が最も豊富であると考えられます。二量体は標的遺伝子の DNA の κB 部位に結合し、個々の二量体は異なる κB 部位に対して明確な親和性および特異性を持って結合することを好みます。異なる二量体の組み合わせは、それぞれ転写活性化因子または転写抑制因子として作用します。NF-κB は、翻訳後修飾および細胞内区画化のさまざまなメカニズム、ならびに他の補因子またはコリプレッサーとの相互作用によって制御されます。NF-κB 複合体は、NF-κB 阻害因子 (I-κB) ファミリーのメンバーと複合体を形成し、不活性化状態で細胞質内に保持されます。従来の活性化経路では、I-κB はさまざまな活性化因子に反応して I-κB キナーゼ (IKK) によってリン酸化され、その後分解されて活性 NF-κB 複合体が遊離し、核に移行します。NF-κB ヘテロ二量体 p65-p50 複合体および RelB-p50 複合体は転写活性化因子である。NF-κB p50-p50 ホモ二量体は転写抑制因子であるが、BCL3 と結合すると転写活性化因子として作用する。NFKB1 は、p105 による結合した NF-κB タンパク質の細胞質内保持と、共翻訳プロセッシングによる p50 の生成という二重の機能を有すると考えられる。

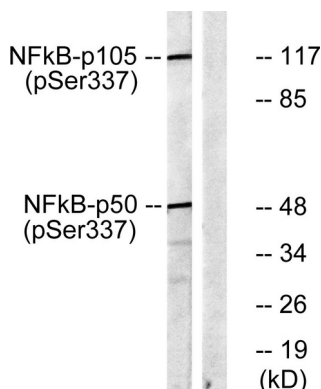
研究分野

T細胞受容体; B細胞抗原; 幹細胞経路; Toll様; MAPK_ERK_Growth; MAPK_G_Protein; PI3K/Akt; タンパク質アセチル化

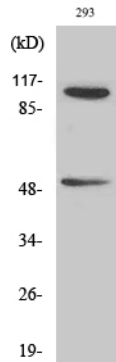
画像データ



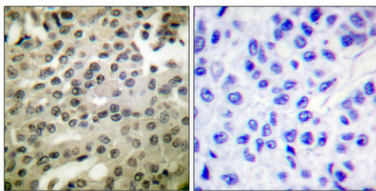
NF-κB p105/p50 (リン酸化 Ser337) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。右の写真は NF-κB p105/p50 (リン酸化 Ser337) ペプチドでブロッキングした画像です。



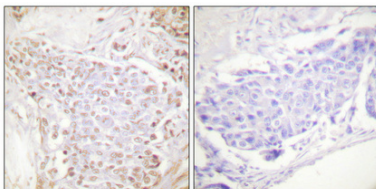
NF-κB p105/p50 (リン酸化 Ser337) 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンに NF-κB p105/p50 (リン酸化 Ser337) ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 NFκB-p105/p50 (S337) ポリクローナル抗体を 1: 500 に希釈して、様々な細胞に対するウェスタンブロット解析を行った。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。